

令和元年度 明正幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：谷島 豊、押田まり子、河野祥多、中田容子、山口滋久
報告書作成者：峯川一義

評価時期 令和2年2月

1 重点目標の評価

3つの評価項目すべてに、教員の否定的な評価はなかった。教員が重点目標を十分に意識して、日々の教育活動を行っているものと考えられる。

(1) 重点目標1 (生きる力の基礎を育む教育活動)

- 園が学齢に応じた体験活動を計画し、体験を通して幼児期に必要な知識や技能の基礎を体得させるような教職員の指導や援助を、保護者は好意的に受け止めている。
- 園内研究を保育に生かしていることについては、研究自体やその成果が見えにくいので、成果となる幼児の姿を保護者に周知する機会を意図的に設定する必要がある。

(2) 重点目標2 (身の回りのことに対する見方や考え方を身に付けさせる教育活動)

- 少ない身の回りの自然を補うために、園外へ出る活動を計画して、身の回りの変化を感じ取らせようと努めているが、保護者は他の項目に比べ「よくあてはまる」が少ない。「幼児が身の周りの変化」を感じ取る具体的な姿を保護者に説明し、幼児の成長としてとらえてもらうようにすることが必要ではないか。
- 多様な遊びを幼児に考えさせたり、用具を工夫したりしている様子が毎回の外部評価委員会で紹介された。幼稚園教育で大切な内容の一つである「遊び」の意義を、保護者に深く理解してもらえよう一層の努力を期待する。

(3) 重点目標3 (自他ともに大切にすることを育む教育活動)

- 2つの質問のいずれも、15%程度の不明あるいは否定的な回答があった。質問は「幼児一人一人の発達に応じた援助や指導」についての園の取組の状況を問うているように解される。そして、全体の評価の設問3「幼児理解」の質問においても、「よくあてはまる」が70%程度にとどまっていることから、教員は、一人一人の幼児の成長・発達を的確に捉え、率直に保護者に伝えるような、一層の努力が必要である。

2 今後の改善に向けた意見

- 全体の評価の設問13「…家庭への連絡、情報発信に努め…」の項目は「十分に達成」が最も少なかった。また、設問12「幼稚園は保護者にとって相談がしやすく…」では「よくあてはまる」が75%あるが、「分からない」が設問13同様14%あり、外部評価委員会でもこの点についての指摘があった。毎日の送り迎えや保護者会など保護者と接する場面が多いと考えられる中でこの結果を見ると、保護者への幼児の情報提供や声掛けに偏りがなかったかどうかを一度振り返ってみるとよいのではないか。

3 その他の意見

- 全体の評価17の設問で15項目は否定的な評価が「0」であった。保護者が園を信頼して幼児の保育を預託している様子がうかがえる。
- 保護者の評価全体を通して言えることは、園では保護者に幼児の活動の様子や園の取組、子供の成長の様子などを逐次適切に伝えているという認識であるが、一部の保護者には十分には伝わっていなかった、ということであろう。すべての保護者に園の活動が理解されるよう、情報の伝え方について多様な方法を工夫するとよい。

令和元年度 中央区立明正幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員： 谷島 豊、押田まり子、河野祥多、中田容子、山口滋久
報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和2年2月

1 重点目標の評価

○重点目標1 「生きる力の基礎を育む教育活動」について

評価指標①「幼児は主体的に遊びや生活に取り組んでいると思う」、評価指標②「計画的に研究を進め、保育に生かしている」は、教職員・保護者・外部評価委員から高い評価を得ている。幼児の教育活動について、保護者アンケート「全体の評価」でもどの項目も高い評価を得ており、意図的・計画的に実践していることが理解できる。

しかし、保護者アンケート重点目標I②の教職員の研究の推進と幼児の保育との関連について理解が十分にされていない。園内研究の取組方、保護者への説明方法、幼児の現状など多様な点から分析・考察し、取組のよさと問題点を整理し、次年度の改善策を明らかにすることが大切である。

○重点目標2 「身の回りのことに対する見方や考え方を身に付けさせる教育活動」について

①「自然に触れる経験や体を動かして遊ぶ環境を保証したり、遊びや生活に必要な動きやきまりが身につけるようにしたり」、②「運動遊びの充実に向けた指導の工夫」など教職員の指導や援助について、どの項目も高い評価を得ている。幼稚園や地域の環境を生かした、製作活動・表現活動・栽培活動・運動遊びなど直接的体験を重視した教育活動を計画的に実践していることが理解できる。

今後は、重点目標にある「遊びや幼稚園生活に必要な動きやきまり」を身に付ける指導の『きまり』について、保護者アンケート「全体の評価」設問8の『規範意識』の項目との関連を分析・考察し、幼児期からの道徳性の芽生えとの関連を明らかにすることが必要である。

○重点目標3 「自他ともに大切にすることを育む教育活動」について

評価指標①「自分の気持ちや考えを友達や教員に出せるように」、評価指標②「相手の思いに気付

いたり受け入れたりするようになるため」に、幼児それぞれの実態や発達段階に応じた援助や指導をしている、の設問では保護者アンケートでは他の重点目標と比較すると評価がやや低い結果である。「自他ともに大切にすることを育む教育活動」は幼児の自尊感情を育むとともに人権を尊重する教育の基本である。結果について分析・考察し、次年度の改善策を明らかにすることが大切である。

設問の「幼児それぞれの実態や発達段階」という文言は、保護者にとって評価の規準となる子どもの姿がイメージすることが難しく、設問内容を吟味することも検討することが大切である。

2 今後の改善に向けた意見

教職員・保護者・外部評価委員のアンケートにおいて、全ての項目において一定程度の評価を得ている。今後もアンケート結果をもとに分析・考察し、次年度に活用することを期待したい。また、重点目標の内容、教員の取組である評価項目、評価指標を整理し、教員、保護者、外部評価委員が協働して園の改善を図ることができるようにすることを期待する。

3 その他の意見

- ・教育を支える力は教員の指導力である。教員の指導力向上への地道な取組を期待したい。
- ・多様な教育活動を多数実施しているが、教員・幼児の実態に応じた教育活動の充実に向け精選・改善を今後も期待したい。